



いろいろな改革というものがそうであるように、フェンダーはひとつの根本的な洞察から開始いたしました。私たちの場合、それは伝統的なアコースティックギターの有したいくらかの問題点を除去し、ソリッドボディのギターを広めていくという認識でした。結局のところ、ボディの機能というものは音響的には弦の振動を拡大し、楽器の音をより大きくするというに尽きます。エレクトロニクスがこの仕事をより良くできる事実があります。

尚、その上アコースティックボディでは、弦のエネルギーを吸収してしまい、長いサステーンを不可能にしてしまうのです。又、生み出すことのできるトーンの範囲を制限し、その楽器が独自に持っている共鳴(個性)だけしか得られません。だからフェンダーは、世界最初のエレクトリックのソリッドボディを創作したのです。そして事実上、現代のギターというものを再び明確にするたくさんの技術を、一杯詰めこんでいるのです。

フェンダーのエレクトリック・ベースの発明は、もっと大きな革命といえます。ベーシストに、軽量でコンパクトで持ちやすく、あらゆる状態に希望したボリュームで演奏できる楽器をあたえたことにより、フェンダーはロックンロールのライブパフォーマンスを可能にしたということが言えるでしょう。今日、“フェンダー・インストルメント・リサーチ”は、自らがパイオニアとしてやってきた改良と革命的展開を拡げ続けています。

